

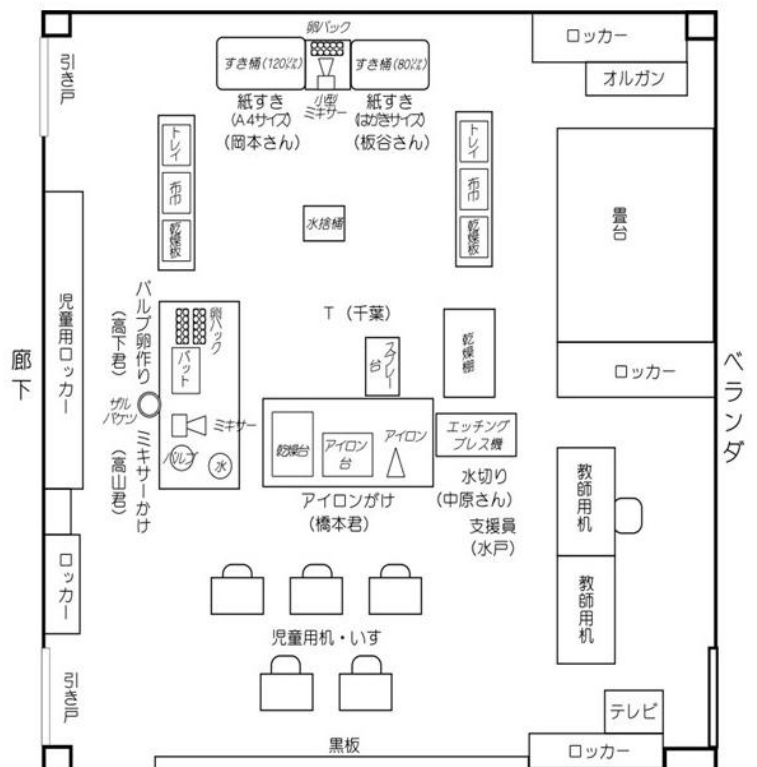
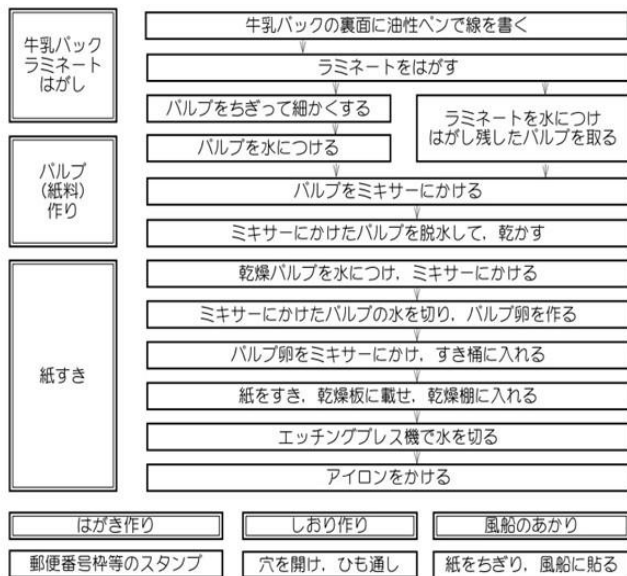
単元「紙を作って、はがきに、オブジェに」

【単元の概要（2020年の実践）】

- 単元期間は、10月21日～12月12日の約2ヶ月間とした。
- 本単元は、青空学級全員が力を合わせて、牛乳パックのパルプを主原料とした手すき紙を作って、はがきやしおり、「風船の灯り」などの製品に加工し販売するというもの。
- この単元を通して、一人一人が分担の仕事や準備・片付けの活動に見通し持って取り組み、質の高い製品を大量に作り、仕事への意欲や集中力、巧緻性などを高めて欲しいと願った。



紙すきの工程と場の設定



紙すきの流れ

(1) 本時のねがい

- 質の高い手すき紙ができるように、一人一人が分担の仕事に精一杯取り組んでほしい。

(2) 本時の展開 (45分扱いバージョン)

※ 児童の名前は、仮名です

時間	児童の活動	支援上の留意点	道具等
0	○それぞれ担当する工程の準備をする。 ・中原さん：起立台に移る。 ・電気器具をコンセントに刺す。	○友達の様子を見ながら、安全に効率良く仕事が進められるように、作業台や乾燥棚等を配置する ○起立台に中原さんの足や腹部を固定する。 ○準備の様子を見ながら、仕事の開始を促す。	作業台 乾燥棚 起立台
5	○それぞれの仕事を始める。 <ミキサーかけ> (高山君) ・バルブと水を計量カップで計り、ミキサーの中に入れる。 ・砂時計を逆さまにしたらミキサーのスイッチを入れ、砂時計が終わったら切る。 ・ミキサーのバルブと水を大ザルにあける。 ・ザルにバルブが溜まったら、床や作業台に水をこぼさないで作業をしてほしい。 <バルブ卵作り> (高下君) ・かごの中のバルブを計量スプーンに詰める。 ・計量スプーンの底板を押して、バルブを手のひらに取り、水を切る。 ・水が切れたら、卵パックに入れる。 ・卵パックに10個入れたら輪ゴムをかけ、空の卵パックを用意し、繰り返す。 <紙すき> (はがき版・板谷さん A4版・岡本さん) ・すき枠に簾や鉢底板、網をセットする。 ・すき桶の中の紙料と水をかき混ぜる。 ・すき枠をすき桶に入れて紙をすく。 ・水切り台にすき枠を乗せ、水を切る。 ・板谷さんは、2回目の紙すきを行う。 ・水が切れたすき枠をトレイの上に置く。 ・すき紙の上にさらしを乗せ、網ごとすき枠から外し、裏返して布巾の上に移し、スポンジで水を切る。すき紙から網を外してさらしを乗せ、スポンジで水を切る。 ・さらしに挟んだまますき紙を乾燥板に移し、乾燥棚に運ぶ。 ・バルブ卵と水をミキサーに入れ、攪拌した紙料をすき桶に入れる。 <水切り> (中原さん) ・乾燥棚から乾燥板に乗ったすき紙を運びすき紙を布巾に挟む(支援員)。 ・ハンドルを回して、布巾に挟んだすき紙を1往復プレスする。 ・プレスしたすき紙を乾燥板に移し、刷毛でなぞって板に密着させる(支援員)。 <アイロンかけ> (橋本君) ・乾燥板の上の紙をさらしで挟み、アイロン台の中央に乗せる。 ・さらしの上からアイロンをかけ、片面すべてにアイロンをかけたら、アイロン台を折り、ひっくり返す。 ・アイロン台を広げ、反対側にアイロンをかける。 ・紙が乾いて平らになったら、紙置き台に移し、押さえ金具を乗せる。 ○片付けを行う。	○バルブや水の量が一定になるように計量カップを用意し、ミキサーに目印の線を書き入れる。 ○ミキサーがけを一定にするため砂時計を用意する。 ○ザルやボウルの水受けを用意する。 ○仕事が途切れないように十分な量の乾燥バルブを水に浸けておく。 ○バルブの状態や床等の様子を見て言葉がけを行う。 ○作業台の上が汚れないように、大きめのバットや布巾を用意し、ミキサーにかけたバルブを入れるかごをバットの中に用意する。 ○計量スプーンに詰めたバルブが取り出しやすいように、スプーンの底に穴を開け底板をつける。 ○卵パックや輪ゴムを十分に用意する。 ○大ききや水切りの様子を確認し言葉がけを行う。 ○すき桶の紙料がまんべんなく漂うように洗濯のりを調節する。 ○2個のすき枠を置いて水切りができるように、傾きをつけた台を用意する。 ○網を外すときにしっかり水が切れるように、吸水性の良いスポンジと布巾を用意する。 ○濡れた紙がさらし布からはみ出さないように、さらし布とすき枠の縦横の中央に目印の線を書く。 ○紙すきの仕事が途切れないように、十分な量のさらしや乾燥板を用意する。 ○大きめのバルブ入れを用意し、すいた状態を確認しやり直しの言葉がけを行う。 ○専用のバルブ卵置き場を用意し、紙料の追加の確認の言葉がけを行い、すき桶で紙料がダメにならないように、小型ミキサーを用意する。 ○手の動きを引き出すためエッチングプレス機を使用し、水切れ具合に合わせて負荷を調節しておく。 ○水切りが確実にできるように、プレス機の上に吸水性の良い布巾を2枚敷いて、すき紙を挟む。 ○活動量が分かるように乾燥棚を目の前に置く。 ○姿勢や疲労を確認し、バルブちぎりも用意する。	バケツ入り バルブ 計量カップ ミキサー 砂時計 大・小のザル 水受け バット 布巾 かご 計量スプーン 卵パック 輪ゴム すき桶 水切り台 洗濯のり すき枠 簾 鉢底板 網 トレイ さらし 吸水スポンジ 布巾 乾燥板 小型ミキサー バルブ入れ 乾燥棚 エッチング プレス機 吸水布巾 刷毛
40	○紙が乾いて平らになったら、紙置き台に移し、押さえ金具を乗せる。	○アイロンが扱いやすいように、コードスタンドや水スプレーを用意する。 ○中から外へアイロンを動かすように、すさらし布の縦横の中央に目印の線を書いておく。 ○裏返す時にしわを作らないように、蒸気が抜ける穴を開けた二つ折りアイロン台を用意する。 ○アイロンかけ後の紙の蒸気が抜けやすいようにメッシュの台と格子状の押さえ金具を用意する。	アイロン コード スタンド アイロン台 水スプレー さらし 紙置き台 押さえ金具
45	○片付けを行う。 ・使った道具を元の場所に戻す。 ・作業台や床の埃を集め、雑巾で拭く。	○乾き具合を確認し、言葉がけを行う。 ○仕事の状況を見て、片付けを促す。 ○児童と一緒に片付けを行い、掃除機をかける。	掃除機 雑巾

(3) 本時の評価

一人一人が自分の分担の仕事に精一杯取り組むことができたか。



『風船の灯り』づくりの工程と工夫

- ①紙すきで作った紙を1辺5センチ程度に切り分ける
- ②水で薄めた木工用ボンドに、①の紙を浸し風船に貼る
 【A：ペットボトルにボンドと水を入れて作り、保管する】
 【B：風船に輪ゴムを付けて、カップ焼きそばの容器に穴をあけ、輪ゴムを通す。風船と容器の間にガムテープの芯を挟む】
 【C：Bを陶芸用の手回しろくろの上に置く】
- ③風船の表面全体が隠れたら、糸を巻きつけたり、木の葉などを張り付けたりして模様を付ける
- ④さらに、模様の糸や木の葉が隠れる程度に紙を貼る
- ⑤④が完全に乾いたら、風船に穴をあけて紙から外す
- ⑥木の板に、コードフックを張り付け、⑤と灯りを取り付ける



様々な風船の灯り・ランプシェード

作り方 (種類)	主な材料	主な作業	制作時間 (目安)	難易度	完成の特徴	特別支援学級 での適性
紙ひも巻き	紙ひも・麻ひも・木工用ボンド	ボンドに浸した紐を風船に巻く	60分+乾燥1日	やや高い	網目状で影が美しい	△ 手先操作がやや難しい
和紙貼り (張り子)	和紙・障子紙・色紙・ボンド水	紙をちぎって貼る	45分×2時間	易しい	柔らかい光・和風	◎ とても適している
お花紙貼り	お花紙・のり・両面テープ	紙を丸めて貼る	30～45分	とても易しい	明るくカラフル	◎ 低学年にも可能
障子紙+水彩	障子紙・水彩絵の具	紙を貼って絵の具で着色	45分×2時間	易しい	光と色の表現	◎ 表現活動として良い
紙粘土貼り	紙粘土	粘土を薄く伸ばして貼る	60分+乾燥	普通	重厚な立体	△ やや重くなる
布貼り	ガーゼ・布・ボンド	布を貼る	60分+乾燥	普通	やわらかな光	△ 作業が少し難しい

作り方(材料) × 手順・支援の手立て = 多様な児童生徒に応じる活動